

## (別表2)

## 第二次審査基準

評価対象	評価項目	配点	判断基準	加点
企画提案書 【155点】	システムの概要 について	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>直感的な操作による使用しやすさ等、システムのデザインや設計思想について説明すること。</li> <li>システムにデータを取り組む際や移行を実施する際にミス防止する機能等、教職員等の負担を軽減できる機能について説明すること。</li> </ul>	※1
	システムの 各機能について	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>学籍管理、出欠管理、成績管理、保健管理等システムの主要な機能について、操作感を踏まえつつその機能を説明すること。</li> <li>ダッシュボード機能等、システムで管理する情報を一元化して把握できる機能を説明すること。</li> <li>職員室以外からの入力機能、タブレットからの入力機能について説明すること。</li> <li>システム内の各機能に入力したデータをシステム内で連携・連動し、各種データを校務や教育活動に有益に活用できる仕組みについて提案、説明すること。</li> <li>学校に限らず、市教育委員会で活用できる仕組みや機能について提案、説明すること。</li> </ul>	
	保護者連絡機能 について	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者連絡機能（スマートフォン用アプリ含む）について、その操作感及び機能を説明すること。特に、保護者にとっての使いやすさを説明すること。</li> <li>保護者と学校間でやり取りできる情報の種類、方法等について詳しく説明し、保護者や教職員の負担が軽減される形でより連携が深まる仕組みを提案、説明すること。</li> <li>保護者連絡機能と校務支援システム間のデータの連携・連動について説明すること。</li> </ul>	※1
	セキュリティ について	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度に、本市では校務システムの更新を予定している。その際にゼロトラスト環境となる可能性もあるため、その環境となった場合を想定した対応について、ICTの知識がなくとも理解できるようにわかりやすく説明すること。</li> </ul>	※1

		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の製造元会社が ISO/IEC27017 を取得している。</li> </ul>	※1
	運用・保守、研修会について	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用・保守のサービス内容（平時・障害時）について説明すること。</li> <li>・システム障害等に備えたデータのバックアップ体制について説明すること。</li> <li>・ヘルプデスク等のサービス内容について説明すること。</li> <li>・年度途中のシステム変更であることから、使用する教職員等が円滑に新システムを使用できるように、研修会の具体的提案内容と実施形式について説明すること。</li> </ul>	※1
	システムの拡張性と将来的な機能追加について	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の改訂又は法改正等への対応方法について説明すること。</li> <li>・機能追加やシステムアップデート時の現場負担の軽減策について説明すること。</li> </ul>	※1
	その他	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書等の要件以外で、本市にとって有益な提案があれば具体的に説明すること。</li> </ul>	※1
業務工程表【5点】	工程	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業量、動員を勘案した余裕ある工程であるか。また、具体的で実現性のあるものとなっているか。</li> </ul>	※1
プレゼンテーション【15点】	専門技術力	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案説明が簡潔で明確であり、専門的な知識・経験を有すると伺えるか。</li> </ul>	※1
	取組姿勢	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容が分かりやすく説明されているか。</li> <li>・出来るだけわかりやすい用語を使う等の配慮があるか。</li> <li>・図を用いる等、理解しやすいよう配慮があるか。</li> </ul>	

	コミュニケーション力	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問に対する回答が迅速であるか。</li> <li>・質問に対する回答が分かりやすいか。</li> </ul>	
機能要件 確認書 【50点】	機能要件	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能要件確認表の点数について下記の計算式により加点する。  <math display="block">A = \text{配点} \times \frac{\text{当該提案者得点}}{\text{全提案者中最高得点}}</math> </li> </ul> <small>注)小数点第1位を四捨五入</small>	A
業務委託 見積書 【25点】	見積価格	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見積価格について下記計算式により加点する。  <math display="block">B = \text{配点} \times \frac{\text{全提案者中最低見積価格}}{\text{当該提案者見積価格}}</math> </li> </ul> <small>注)小数点第1位を四捨五入</small>	B
計		250		

企画提案書については、的確性（※2）、実現性（※3）、独創性（※4）、積極性（※5）をふまえ評価する。

- ※1 5段階評価による加点は、配点の100%、80%、60%、40%、20%とする。
- ※2 的確性…与条件との整合があり、適切な着眼点が網羅され、本市の特性や現状等を的確に把握した上で具体的に提案されているか。
- ※3 実現性…計画策定までの作業手順や成果を整理し、経験や実績等をふまえた提案内容になっているか。
- ※4 独創性…提案者が有する専門的知見や技術を生かした独自性を持ち、また、本市が今後取り組むべき施策展開について、実情に沿った提案内容となっているか。
- ※5 積極性…仕様書等に記載がない事項で、本計画策定に有益な提案であるか。